福澤諭吉記念慶應義塾史展示館だより

# Tempus

Tempus Fugit —— 時は過ぎゆく

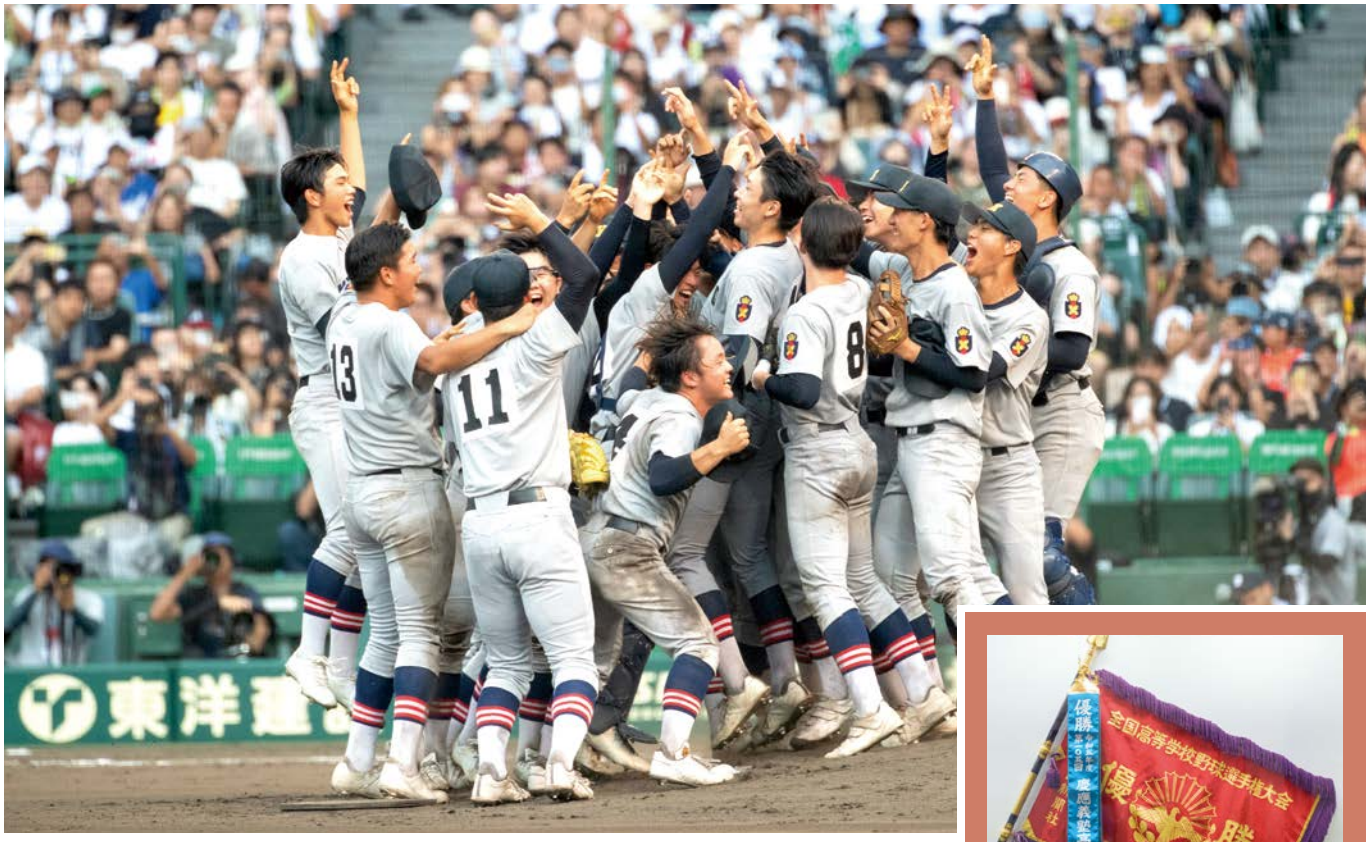
FUKUZAWA YUKICHI MEMORIAL
KEIO HISTORY MUSEUM

号外

Jan. 2024

2023年は、夏の甲子園での塾高野球部優勝による高校日本一、そして秋の東京六大学野球リーグ及び明治神宮大会での大学野球部優勝による大学日本一が重なる記念すべき年となりました。当展示館では、高校・大学に相応しい学生スポーツのあり方に一石を投じ続けてきた両野球部の「Enjoy Baseball」の伝統を、常設展でも開館以来展示し、2022年春には企画展を開催しました。この2つの優勝を記念し、特別出品として関連資料を展示します。

# 2023年 夏 慶應義塾高校野球部の活躍



慶應義塾高校野球部（以下塾高野球部）は、第105回全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園）で優勝を遂げた。大正5年（1916）以来107年ぶり2回目となる全国制覇の快挙である。

塾高野球部は、幼稚舎教員の森林貴彦監督が率いる。森林は、腰本寿・前田祐吉らが説き、前監督の上田誠が引き継いだ慶應野球伝統の「Enjoy Baseball」の精神を重視し、学生の自主性や成長を重んじた考える野球をモットーとしてきた。

「長髪」とやゆされるヘアスタイルや、高校野球に根強くのこる精神論・根性論的な野球観とは一線を画するプレースタイルから異端視されてきた塾高野球部は、あえてその異端に誇りを持ってプレーしてきた。高校野球の「常識」を疑い、より学生スポーツの本質に立ち返って、合理的に野球をとらえ直す反骨精神は慶應野球の伝統であり、なおかつ福澤諭吉の説いた「独立自尊」の、野球における模索なのである。

**全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園）優勝旗**

深紅の大優勝旗。中央に鳩の絵柄と「優勝」の2文字が織り込まれ、下部の「VICTORIBUS PALMAE」はラテン語で「勝者に栄光あれ」を意味する。重さは、ポール部分を含めると約10kg。現在使用されている優勝旗は、平成30年（2018）の第100回大会に合わせて新調された3代目。平岡旗製造制作。

# 慶應義塾高校野球部 戦績一覧

| 日付・球場 | 試合 | 対戦校 | スコア | 戦評 |
|---|---|---|---|---|
| 7/10(月)<br>横浜スタジアム | 神奈川大会<br>第2回戦 | **白山** | **慶 004 53 ＝12**<br>白 002 00 ＝ 2 | 第１シード・慶應義塾の初戦は第二回戦から。圧倒的な長打力を見せつけ５回コールド発進。丸田は４打数４安打。 |
| 7/13(木)<br>保土ヶ谷 | 神奈川大会<br>第3回戦 | **津久井浜** | 津 000 000 00 ＝ 0<br>**慶 002 121 1x ＝ 7** | 投げては先発・飯田が４回までパーフェクトピッチング。打っては３回以降毎回得点でサヨナラコールド勝利。 |
| 7/16(日)<br>平塚 | 神奈川大会<br>第4回戦 | **県相模原** | **慶 001 022 05 ＝10**<br>相 000 000 00 ＝ 0 | 小宅・鈴木佳の継投で県相打線を零封。８回には打者９人の猛攻で一挙５得点。８回コールドで５回戦進出。 |
| 7/18(火)<br>相模原 | 神奈川大会<br>第5回戦 | **市ヶ尾** | 市 000 000 1 ＝ 1<br>**慶 320 020 1x ＝ 8** | 慶應打線は、大村の猛打賞を含む先発全員安打と大爆発。８回サヨナラコールドで準々決勝へと駒を進めた。 |
| 7/20(木)<br>横浜スタジアム | 神奈川大会<br>準々決勝 | **横浜創学館** | 創 000 002 000＝ 2<br>**慶 004 300 00x＝ 7** | ３回に延末スリーラン、４回に加藤ツーランなど、主砲の活躍が光り危なげなく準決勝進出。 |
| 7/24(月)<br>横浜スタジアム | 神奈川大会<br>準決勝 | **東海大相模** | **慶 302 403 ＝12**<br>東 000 001 ＝ 1 | 渡邉千、加藤、延末の中軸全員に本塁打が出るなど、強豪・東海大相模を投打で圧倒。６回コールドで決勝進出。 |
| 7/26(水)<br>横浜スタジアム | 神奈川大会<br>決勝 | **横浜** | **慶 002 001 003＝ 6**<br>横 000 013 100＝ 5 | ２点を追いかける９回表に渡邉千の逆転スリーランが飛び出し、５年ぶり19回目の夏の甲子園への切符を掴む。 |

| 日付 | 試合 | 対戦校 | スコア | 戦評 |
|---|---|---|---|---|
| 8/11(金) | 甲子園<br>第2回戦 | **北陸**<br>（福井県） | 北 000 000 004 ＝ 4<br>**慶 113 220 00x ＝ 9** | 初戦は秋季北信越大会の覇者である北陸。慶應打線は５回までに 12 安打９得点と爆発、投げてはエース小宅が７回無失点と好投を見せ、快勝で３回戦進出。鳴りやまぬ「若き血」は、一躍注目を浴びた。 |
| 8/16(水) | 甲子園<br>第3回戦 | **広陵**<br>（広島県） | **慶 201 000 000 3 ＝ 6**<br>広 001 001 100 0 ＝ 3 | ３回戦は前年の明治神宮大会準優勝校の広陵。優勝候補筆頭である広陵から初回２点を先制するも、ジリジリと追いつかれ延長戦へ。タイブレークから丸田のヒットや延末の２点タイムリーで勝ち越し、準々決勝進出。 |
| 8/19(土) | 甲子園<br>準々決勝 | **沖縄尚学**<br>（沖縄県） | **慶 000 006 100 ＝ 7**<br>沖 000 200 000 ＝ 2 | 準々決勝は、県大会から 47 1/3 イニング連続無失点を誇る東恩納蒼を擁する沖縄尚学。５回まで３安打得点に苦しむも、６回に加藤の満塁走者一掃のタイムリーや渡辺憩、福井の連続タイムリーで KO。準決勝へ駒を進める。 |
| 8/21(月) | 甲子園<br>準決勝 | **土浦日大**<br>（茨城県） | 土 000 000 000 ＝ 0<br>**慶 010 001 00x ＝ 2** | 準決勝は、同じく「丸刈り」ではない土浦日大。２回にエース・小宅が自らのバットで先制タイムリーを放ち、その後は投球でスコアボードに０を並べ続ける。結局９回を７安打完封で締めて、103 年ぶりの決勝進出を果たす。 |
| 8/23(水) | 甲子園<br>決勝 | **仙台育英**<br>（宮城県） | **慶 210 050 000 ＝ 8**<br>仙 011 000 000 ＝ 2 | 決勝は、昨年度優勝校であり、春の選抜では初戦でサヨナラ負けを喫した仙台育英。初回、先頭丸田の大会史上初となる、決勝での先頭打者本塁打を皮切りに打線は好調。投げては鈴木佳、小宅の２年生投手が仙台育英打線を抑え、107 年ぶり２度目の全国制覇を達成。 |

# 慶應義塾大学野球部 戦績一覧

〈東京六大学野球秋季リーグ戦〉

| 順位 | 校名 | 慶應義塾 | 明治 | 早稲田 | 法政 | 立教 | 東京 | 試合 | 勝利 | 敗戦 | 引分 | 勝点 | 勝率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **1** | **慶應義塾** | --- | ○●○ | ●○○ | ○●△○ | ○○ | ○○ | **14** | **10** | **3** | **1** | **5** | **.769** |
| 2 | **明治** | ●○● | --- | ●○○ | ○●○ | ○○ | ○○ | 13 | 9 | 4 | 0 | 4 | .692 |
| 3 | **早稲田** | ○●● | ○●● | --- | ○○ | ○○ | ○○ | 12 | 8 | 4 | 0 | 3 | .667 |
| 4 | **法政** | ●○△● | ●○● | ●● | --- | ○○ | ○●○ | 14 | 6 | 7 | 1 | 2 | .462 |
| 5 | **立教** | ●● | ●● | ●● | ●● | --- | ○○ | 10 | 2 | 8 | 0 | 1 | .200 |
| 6 | **東京** | ●● | ●● | ●● | ●○● | ●● | --- | 11 | 1 | 10 | 0 | 0 | .091 |

| 日付 | 対戦校 | 結果 | スコア | 戦評 |
|---|---|---|---|---|
| 9/9 | 立大① | ○ | R 000 001 100 ＝ 2<br>**K 201 000 00x ＝ 3** | 開幕戦。外丸７回２失点、宮崎１号 HR などで辛勝。 |
| 9/10 | 立大② | ○ | **K 020 003 033 ＝ 11**<br>R 001 201 030 ＝ 7 | 立大猛追も逃げ切る。本間と宮崎がそれぞれ２HR。対立大戦19連勝。**勝ち点１を獲得。** |
| 9/23 | 法大① | ○ | **K 322 100 000 ＝ 8**<br>H 000 001 100 ＝ 2 | 好投手・篠木を序盤から打ち崩し、快勝。 |
| 9/24 | 法大② | ● | H 000 011 202 ＝ 6<br>**K 010 102 000 ＝ 4** | 栗林２打席連続 HR も、終盤粘り切れず惜敗。 |
| 9/25 | 法大③ | △ | **K 000 000 000 000 ＝ 0**<br>H 000 000 000 000 ＝ 0 | 外丸 142 球無失点、篠木 154 球無失点の粘投も延長 12 回引き分け。 |
| 9/26 | 法大④ | ○ | H 000 103 000 ＝ 4<br>**K 000 113 00x ＝ 5** | シーソーゲームを制し、死闘の慶法４連戦を制す。**勝ち点２を獲得。** |
| 9/30 | 東大① | ○ | **K 005 001 005 ＝ 11**<br>T 000 000 100 ＝ 1 | 相手の失策からビッグイニングを作り、快勝。 |
| 10/1 | 東大② | ○ | T 100 300 000 ＝ 4<br>**K 311 230 00x ＝ 10** | 途中相手打線に捕まるも、栗林６打数５安打５打点の大暴れで快勝。**勝ち点３を獲得。** |
| 10/14 | 明大① | ○ | M 000 100 100 ＝ 2<br>**K 500 000 00x ＝ 5** | 好投手・村田を序盤から打ち崩し、リードを守り切り勝利。 |
| 10/15 | 明大② | ● | **K 000 000 000 ＝ 0**<br>M 000 100 000 ＝ 1 | 10 安打を放ち好機を作るも一本が出ず。犠牲フライの１点で決着。 |
| 10/16 | 明大③ | ○ | M 000 000 000 ＝ 0<br>**K 400 010 00x ＝ 5** | 好投手・村田を打ち崩し、外丸は意地の完封でリードを守り切る。**勝ち点４を獲得。** |
| 10/28 | 早大① | ● | **K 000 000 002 ＝ 2**<br>W 000 010 002x ＝ 3 | 最終盤で逆転も裏を守り切れず逆転サヨナラ負け。 |
| 10/29 | 早大② | ○ | W 000 000 000 ＝ 0<br>**K 200 000 20x ＝ 4** | 初回から好投手･伊藤対し無死満塁のチャンスを作るなど、慶應ペースで試合が運び、投手陣は０封リレーで快勝。 |
| 10/30 | 早大③ | ○ | **K 002 000 300 ＝ 5**<br>W 000 001 200 ＝ 3 | 廣瀬の通算 20 号となる特大 HR で先制、外丸が捕まるも森下が守り切り優勝。**４シーズンぶり 40 回目の優勝を達成。** |

| 日付 | 試合 | 対戦校 | スコア | 戦評 |
|---|---|---|---|---|
| 11/18（土） | 神宮大会<br>準々決勝 | **環太平洋大**<br>（中部・四国三連盟） | 環 000 000 0 ＝ 0<br>**慶 010 310 2x ＝ 7** | 代打・佐藤一のサヨナラタイムリーでコールド発進。投げては外丸が６安打完封勝利。 |
| 11/19（日） | 神宮大会<br>準決勝 | **日本体育大**<br>（関東五連盟第二代表） | 日 000 001 000 ＝ 1<br>**慶 000 003 11x ＝ 5** | 主将・廣瀬が逆転スリーランを含む２本塁打４打点の大活躍で決勝進出。 |
| 11/20（月） | 神宮大会<br>決勝 | **青山学院大**<br>（東都大学野球連盟） | **慶 000 000 020 ＝ 2**<br>青 000 000 000 ＝ 0 | 中盤まで拮抗するも、ドラフト１位・下村の隙をついてノーヒットで２点をもぎ取る。投げては、中１日の登板となった外丸が５安打完封。**４年ぶり５回目の神宮大会制覇。** |

作成担当：酒井俊輔（福澤研究センター臨時職員　法学部政治学科４年・應援指導部OB）

福澤諭吉記念慶應義塾史展示館だより

# Tempus

Tempus Fugit —— 時は過ぎゆく

FUKUZAWA YUKICHI MEMORIAL
KEIO HISTORY MUSEUM

号外

Jan. 2024

# 2023年 秋 慶應義塾大学野球部の活躍

慶應義塾体育会野球部は、東京六大学野球2023年秋季リーグ戦で優勝を遂げた。実に4季ぶり40回目の優勝であり、他5大学全校から勝ち点を挙げる完全優勝は、福谷浩司(中日)らを擁した2011年春季リーグ戦以来12年ぶりとなる快挙である。

さらに、東京六大学代表として出場した明治神宮大会においても、2019年以来4年ぶり5回目の優勝を飾り、見事大学日本一を成し遂げた。

昨年のチームからは、不動の4番を務めた萩尾匡也(巨人)、鉄壁の守護神である橋本達弥(DeNA)ら主力メンバーが多く抜け、未知数のメンバーでのチーム構成となった。無念にも3位に終わった春季リーグでの反省を生かし、夏は学生主体で練習に没頭した。また、堀井哲也監督の「良い顔して野球をやろう」という言葉をヒントに、手製の「良い顔して野球をやろうボード」も作成され、緊張を和らげるとともに選手の士気が高まる工夫もなされていた。慶應、東大以外の4大学は運動部が志願者を選抜する特別枠、いわゆる「スポーツ推薦」があり、名だたる名門校出身の選手で固められている中、「Enjoy Baseball」を広めた前田祐吉監督の「有名選手はいらない」「素質は造れる」という考え方を体現したチーム作りが実を結んだのである。

**天皇杯**(東京六大学野球リーグ優勝杯)

東京六大学野球リーグ制覇の賜杯。原則として天皇杯は各競技に一つで、野球においては東京六大学野球リーグ制覇校へ与えられる。これは大正15年(1926)の明治神宮野球場完成の年に摂政杯が東京六大学野球連盟に下賜され、昭和21年(1946)に天皇杯へ改められて以来続く伝統である。

福澤諭吉記念慶應義塾史展示館だより
Tempus(テンプス) 号外

発行日　2024年1月10日　　印刷　(有)梅沢印刷所

編集・発行　福澤諭吉記念慶應義塾史展示館
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45　電話 03-5427-1200　https://history.keio.ac.jp/

各種SNSはこちら　@keiohistory　@keiohistory　@keio_history